

【緑地の樹】

ミズキ(水木)

プロフィール：ミズキ科ミズキ属の落葉高木
中央広場の作業小屋横にあります。

沖縄を除く日本中どこの山にも見られる落葉高木(10～20m)で、春先に枝を折ると樹液が水のように滴るのでこの名前が付いたそうです。5～6月、緑葉の山にクリーム色っぽい白い花が模様をつけているの目立ちます、それがミズキです。枝が水平に四方に広がり、段々状の樹形を作っています。樹皮は灰褐色です。葉は互生で、先が短く尖った長さ5～15cmの広楕円形で、側脈が6～9対。ハナミズキやヤマボウシも同じミズキ属ですから、葉が少し似ています。5～6月、枝先に直径7～8mmの小さな花がびっしりまとまって咲きます。

西緑地では山の段々を降りた中央広場の物置そばのベンチに、斜面から覆い被さるように枝を伸ば



しているミズキが目立ちます。枝先に手が届きますから、花が咲いていたらちょっと引っ張って花を観察して、匂いも嗅いでみて下さい。いい匂いです。

緑地にはほかにも数本存在しています。(星)



今はこんな状態